

第 76 回

合格してから監査法人に 転職するまでの流儀

皆さん、こんにちは。J1 の K と申します。私は社会人で試験に合格した後、監査法人に転職しました。

今回は合格してから監査法人に転職するまでについて、流儀（ポイント？）を 3 点お話いたします。監査法人への転職をお考えの社会人だけでなく、監査法人に就活中の方々にもお役に立てれば幸いです。

① 転職活動は合格発表前でほぼ決まる

一般的な就職・転職市場と異なり、監査業界は合格発表前に説明会等が行われ、合格発表後すぐに選考が始まります。さらに大手監査法人は協定により説明会等の期間が限られます。日々働く社会人にとっては、説明会の日程が合わないことが多々ありました。

そのような中、なるべく監査法人は限定せずに、土

曜日など日程が合えば説明会等に参加するようにしていました。監査業界自体を知ることができますし、中小監査法人の説明会でも大手出身者の方から客観的に法人の違いを聞けることもありました。

また、合格発表前から会計士を目指した理由等、定番の問いの回答準備を進めました。その際、予備校の就活資料や各法人公開のエントリーシートが作成の参考になります。

受かっているか分からない合格発表前から、しかも仕事と並行した転職活動は大変です…私の場合、良い気分転換だと思って説明会等に参加していました。

② 転職準備期間はドタバタ

一般的な転職でも、現職の業務完遂や引き継ぎ、また入社書類の準備等で慌ただしいです。加えて、公認会計士を目指される場合、転職準備期間と重複する年明け 1 月～3 月に実務補習所の講義等が入ってきます。かなりドタバタでしたので、残っていた有休を使いながら現職・転職準備・実務補習所に対応しました。

③ 立つ鳥跡を濁さず

転職活動を通じて感じましたが、会計士試験合格は監査法人等に転職（就職）する上で強力なパスポートです。選択肢が広がる分、社外や将来に目が行き、私の場合、転職前の現職に少し気が回らない瞬間もありました。しかしながら、現職に在籍している間は業務を全うして、跡を濁さないよう心掛けました。

在籍していた事業会社が、将来クライアントになるかもしれませんし。あとは事業会社の中に居て会社を見ることができる、最後の機会かもしれませんし。

以上、転職するまでの流儀でした。特に働きながらの試験勉強は身に染みて大変です。応援しています！